

放課後等デイサービスてくてく 自己評価表

	チェック項目	評価		改善目標、工夫している点など
		○(適切)	△(改善必要)	
環境体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○		定員20名の子どもたちが活動するために必要なスペースの確保はできています。今後の方向性として、子どもたちがより充実した活動ができる環境を整備していきます。
	② 職員の配置数は適切であるか。	○		基準に基づいて適切に配置しています。また、児童指導員を加配することで、よりきめ細やかな支援を実践することができる体制を維持しつつ、職員のスキルアップを図っていきます。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	○		事業所の基本設計がバリアフリーなので、身体・視覚障害の方等のご利用も可能な事業所となっています。今後もご利用になる方のニーズに応じながら整備します。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		各職員が自分の意見を出し合いながら、日々の業務改善を実施しています。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○		年に2回、提供させていただいたサービスの内容について保護者様にアンケートを実施して、業務改善に必要な事項について検討を重ねています。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○		事業所のホームページに自己評価表を掲載し、情報の公開を実践しています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		運営に関する事項等について、年度末に第三者委員会等へ報告しています。
	⑧ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○		外部・内部研修の案内をリアルタイムに職員へ周知し、業務時間の調整を行いながら研修等に積極的に参加することができるよう配慮しています。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的な個別面談及び必要に応じた個別面談を実施することで、子ども及び保護者様のニーズをアセスメントツールを活用して把握するようにしています。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○		標準化されたアセスメントツールを使用しています。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		週案を作成しながら、職員全員でプログラムの策定を実施しています。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節感のある活動や社会体験など、多様なプログラムを準備しています。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか。	○		平日(登校日)は、集団及び個別活動を主とした支援を実施し、長期休校日では、地域の社会資源を活用した支援を実践しています。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		お子様個々がもつ「強み」に視点を置いた個別支援計画を作成し、個別及び集団での活動をバランスよく提供できる内容にしています。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○		職員全体で1~2時間のミーティングを実施し、子どもの状況や健康状態、プログラム内容や当日の役割等について密な打ち合わせを実施しています。
	⑯ 支援終了後には職員間で打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか。	○		支援内容が適切であったかについて、職員間で振り返りを行っています。うまくいかなかった場合は、その原因がどのようなものであったかについて職員間で究明し、次の支援に繋げるようにしています。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録及び引継ぎ事項等を再確認しながら、支援内容が正しかったかどうかについて検証し、職員間で周知するようにしています。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	○		定期的なモニタリング及び保護者様のニーズに応じたモニタリングを実施し、必要に応じて個別支援計画の見直しを実践しています。
関係機関や保護者との連携	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインについて、管理者及び児童発達支援管理責任者が理解を深め、職員へ週とするとともに、ガイドラインに準じた活動を実践しています。
	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○		定期的開催されるサービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者が参加し、情報の提供及び共有をしています。また、必要に応じて児童指導員又は保育士も一緒に参加しています。
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		毎年、年度初めに学校等へご挨拶に伺って校長先生及び教頭先生と面談をさせていただいています。その際、学校の年間行事及び下校時刻等に関する情報を提供させていただいています。また、担当の先生とも連絡調整を円滑に行うことができるよう情報の共有化を図っています。
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。		△	現在、医療的ケアの必要なお子様の受け入れることができる体制になっていません。今後ニーズが出てくることを想定しつつ、受け入れ体制について検討していきます。
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		移行前の状況を把握することを目的として各機関等にアポイントを取り、訪問することでお子様の情報共有を図っています。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所を通して、卒業後の障害福祉サービス事業所への情報提供は行っています。
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	○		㉓同様に各機関にアポイントを取り、訪問することでお子様の状況について助言をいただきながら把握するようにしています。
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。		△	近隣の公園等で遊ぶ機会の設定していますが、放課後児童クラブ及び児童館との交流については実践例がないので、地域機関と調整を行いながら実行できる環境を整備していきます。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会及び児童発達支援ワーキング等に参加しながら、自事業所だけではなく圏域における事業所間の連携を図ることができるようにしています。
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか。	○		日々の活動の中で連絡帳や送迎時を利用して、保護者様とコミュニケーションを取る機会を持っています。また、必要に応じて家庭訪問や電話等により、相互の共通理解を深めるようにしています。
㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。	○		保護者様のニーズや悩み等に応じて専門的な助言をさせていただきながら、事業所とご家庭での療育支援が連動したものになるよう配慮させていただいています。	
㉚ 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		重要事項説明書及び運営規定を有効に活用しながら、利用者負担等の事項については説明させていただいています。	
㉛ 保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		ご家族からご相談を受けた場合には、必要に応じた助言をさせていただいています。	

保護者への説明責任	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。		△	現在、当事業所には「父母の会」「保護者会」はありません。ご家族のご意向を確認させていただきながら、必要に応じて検討していきます。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		法人及び事業所共通の苦情受付マニュアルに則った運営を行なっています。また、苦情受付に関する情報についても重要事項説明書を通してご家族に周知させていただいています。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		事業所全体の広報誌の発刊(年4回程度)及び放課後等デイサービス単独のおたより(毎月発刊)を発行して、活動等について保護者様に情報発信をしています。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか。	○		守秘義務に基づいた法例を遵守しています。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々のニーズに添った意思疎通(手話、筆談等)ができるよう各職員が配慮させていただいています。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業所運営を図っているか。		△	事業所での行事として、そば打ち体験などを行って地域住民の方たちとの交流を行っていますが、事業所での行事にご招待するまでには至っておりませんので、今後の課題の一つとしてプログラムの検討を実施します。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	○		ご利用開始の際に感染症対応のマニュアルをご提示させていただいています。また、緊急時対応等についても重要事項説明書を通じて保護者様にご周知させていただいています。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的な訓練を実施(毎月1回)しています。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止法に基づいた内部研修及び外部研修に参加し、意識の徹底を図っています。
	④⑪	どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束について、原則として当事業所では身体拘束を行っていません。必要な事案が発生した場合には、お子様及び保護者様と事前の話し合いをしっかりとつようしていきます。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメント時に保護者様から担当医師の情報について教えて頂くようになっています。今後も必要に応じた情報を把握する体制を継続していきます。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。		△	ヒヤリハット集の内容に不十分な箇所があるので、再度内容について確認を行い、職員がより理解しやすいものに作り替えていきます。

自己評価策定会議

開催日時: 平成30年3月15日(木) 18:00~19:00

開催場所: 障がい児者サポートセンターとと2階食堂

参加者: 管理者1名 児童発達支援管理責任者1名 保育士1名 児童指導員1名

自己評価表作成者: 管理者 小山洋之